



○ 守破離の話

私が立ち上げたホームページ「しんりのしごとでつかえるそざい。」は、子どもに関わる仕事で使える素材共有サイトとして、職種や経験年数を問わず、一人でも多くの人に活用してもらうことを目的として運営しています。

このような取り組みをしてきた中で、時として「背景となる基礎知識が十分に備わっていない若手職員が、よくわからずにこの素材を使うのはあまり望ましくないのでは」というご指摘を受けることがありました。確かにそのご指摘には一理あり、この取り組みを続けていくにあたっては、その点についても責任を持って向き合うべきだと考えるところです。しかし一方で、私には私なりの考えがあり、私は基礎知識がわからない若手職員にこそ、積極的にこの素材共有サイトを使ってほしいと思っています。

この素材共有サイトについての私の考え、いただいたご指摘に対する答え、未来を担う若手職員の皆様に伝えたいことをここにしたためます。



○ 守破離の話

日本の伝統文化や武道、芸術などにおいて、学びや成長の過程を表すものとして「守破離（しゅはり）」という言葉があります。唐突ですが、この言葉にこの資料共有の取り組みの意図が含まれています。



基本や規則を守る段階で、師から教わった型を忠実に守り、模倣することが重要な段階。この段階で基礎をしっかりと身につける。



基本を習得した後、独自のアプローチや工夫を加え、教わった型を少しずつ破る段階。自分なりに解釈や表現を取り入れて、個性を出し始める。



最終的には師の教えから完全に離れ、自分のスタイルを確立する段階。独自の考え方やスタイルを発展させ、他人に模倣されることなく自分の道を歩む。



○ 守破離の話

1つのことを極めるためには「守」の段階を経ることが極めて重要ですが、この仕事において守るべき型とは何でしょうか？私がこの業界に配属された当初、守るべき型はほとんど存在しませんでした。幸いにも尊敬できる上司と出会い、その上司を師として「守」の段階を踏み、多くの経験を積む中で「破」の段階へと進み、今は「離」の段階に踏み出している、そんな風に感じています。

しかしながら、この仕事には型と呼べるものが少ないのが現実です。型を作り出し、OJTを通じて教えられる人はどれほどいるのでしょうか。抽象的なあるべき論を伝えることはできても、具体的な型を示せる人は少ないのではないのでしょうか。私自身がその一人であり、「これをやってみたらいいんじゃない？」と部下に提案できる引き出しが全くなく、このままではただの空論家で口だけ番長になってしまいう、そんな危機感から、具体的な提案ができるよう引き出しを増やすために素材作りを始めたのです。

もちろん、この仕事がマニュアル的な型で対応できるものではないことは十分に理解しています。しかし、型がない中で若手職員はどのように戦うべきなのでしょう。言うならば、武器も与えずに戦場に放り出すようなものです。育成を担う立場として、せめてもの標準装備をさせて戦場に送り出してあげたいと思うのです。



○ 守破離の話

新人であろうと、誰が担当しても最低限のパフォーマンスは達成できる、そういう仕組みを作り、その中で実践経験を積ませ、それを繰り返す中で力を高め、最低限から平均的なパフォーマンスが出せるようになる、それが私が考える一つの育成のあり方であり、その仕組みの一端を担うものとして目指しているのがこの素材共有サイトです。

若手職員の皆さんには私が作った型を積極的に使ってほしいと思っていますが、皆さんにはこれを使うことだけで満足するのではなく、私のように「破」の段階に進み、「離」へとステップアップしてほしいのです。掲載されている資料は、あくまで私が作ったもので、それは私の思考や経験を言語化したものです。これは私の言葉でしかなく、誰かから借りた言葉では重みもなく説得力にも欠けてしまいます。ですから、皆さんには自分自身の思考や体験を言語化し、自分の言葉で語れるものを多く身につけてほしいと願っています。

そのために、この素材共有サイトを使う時に意識してほしいことがあります。それは「なぜこれを使うのか」を常に考え、徹底的に突き詰めることです。



○ 守破離の話

これは一見、当たり前のことのように思えるかもしれませんが。しかし私は、私も含めて、ここが最も弱い部分ではないかと思うのです。例えば「気持ちのこと」を使う理由は为什么呢？「気持ちに関する心理教育をする必要があるから」という理由ではあまりにも浅いと言わざるを得ません。なぜ気持ちに関する心理教育が必要なのでしょう？世の中の99%以上の人はそのような心理教育など受けずに大人になり、それでも多くの人が一定程度感情とうまく付き合っています。私の子どもにもそのような心理教育はしていませんが、それでもある程度うまく感情を処理できているように見えます。おそらく、これを読んでいる皆さんも、子どもの頃にそんな心理教育など受けたことはないはずですが、それでも普通に日々を送れているのではないのでしょうか？

では「感情コントロールに課題があるから」という理由はどうでしょうか。もしそうだとすると、なぜ「気持ちのこと」をするのでしょうか。対処スキルを学ぶ、原因究明を行うカウンセリング、認知行動療法的なワークなど、様々なアプローチが考えられる中で、なぜそれを選択したのか。これを深く掘り下げ、言語化する作業を常に続けてほしいと思います。



○ 守破離の話

なぜこのことを強調して伝えたのか。それは、前のページで「新人であろうと、誰が担当しても最低限のパフォーマンスは達成できる、そういう仕組みを作り」と書きましたが、「誰が担当しても最低限のことができる」それはつまり、この素材共有サイトを知っている人であれば、心理職でない人でも心理職らしい活動ができてしまうということを意味しています。心理教育系の素材は、学校の先生が授業で使うこともできるでしょう（実際にそのような声をもらったこともあります）。もっと極端に言えば、大学生のアルバイトでさえ、この素材を使うことで心理職のようなことが簡単にできてしまうのです。素材をただ使うだけならば、もはや心理職は不要な存在なのです。

多くの心理職は、リラクゼーションの方法として、深呼吸や筋弛緩法を子どもアドバイスしますが、このアドバイスも誰にでもできるものです。Googleで「リラクゼーションの方法」と検索すれば、今ではAIが自動的に「呼吸やストレッチ、筋弛緩法」と回答してくれますから、中学生にだってできるアドバイスです。この程度の仕事ならば、わざわざ心理職という肩書きを持った専門家が行う必要はなく、ただネットで調べた情報を伝えるだけの簡単なお仕事なのです。



○ 守破離の話

私の素材共有サイトに掲載された資料を使うということは、ネットで調べた情報をそのまま利用することにほかなりません。このことを踏まえて最後にあえて述べるとすれば、皆さんには私が作った素材に対して批判的思考を常に持ち続けてほしいと思います。その批判的思考こそが、新たなアイデアを生み出し、誰にでも手に入る既存の考えを単にトレースするのではなく、ネットにはのっていない専門性とオリジナリティを創出していくのではないのでしょうか。例えば「気持ちのこと」は、自分で作りながらも、本当に感情の発達に必要なことはこれなのだろうか、このような机上のお勉強で本当に感情が育つのだろうかと自問自答した結果、生まれたのが「感情の発達をロードマップにしてみた」です。この自己批判的な姿勢が、自分の専門性を高め、守破離へと繋がっているのだろうと思うところです。

皆さんにも「守」から「破」、そして「離」へと進み、自分自身のオリジナルを作り上げてほしいと願っています。その道を歩む中で、この素材共有サイトが少しでもその一助となり、皆さんの成長を支える存在となることを心より願っています。

注) 偉そうに書いてきましたが、実は最後の締めくくりがうまくまとまらず、このページはChatGPTさんに何度も添削をしてもらいました。ネットに頼るな的なことを書いておきながら、私の力もそんなものなのです。その程度の実力なので、この仕事を辞める時がくるまでは努力を続けていくしかない、ありきたりですが、結局はそれに尽きる、ということで締めさせていただきます。